

大学学部1年生に行ったカタカナ・日本語 による英語発音指導

英語科 浅見道明

1. はじめに

2007年に日韓学会（International Conference for Media in Education）の釜山大会で研究発表をする機会があった。そこで同じように発表していた、英語が専門ではない日本人大学教師が、発表後に、「私は英語がしゃべれないので質問があったらメールで送ってくれ。」と言っているのを聞き、かなり驚いた。大学レベルになると海外での発表もあるが、英語が話せないと、質疑応答もできないので、英語を話す、聞くという力が必要であることを痛感した。

現在、お茶の水女子大学で生活科学部のコア科目である基礎英語を1クラス、非常勤講師として担当している。この授業では聞く力、読む力の他に話す力を伸ばすことを目標に授業を行っている。

2. 現在行っている生活科学部1年生基礎英語の授業について

この基礎英語は半期で、週1回90分で授業を行っている。大学で2011年度に導入されたCALL教室を使用して授業を行っている。ソフトウェアは内田洋行のPC@LLを使用している。2012年度前期は生活科学部1年生27名の履修者があった。

内容は、初めに自作のデジタルリスニングコンテンツ（発音項目別）を1日1項目ずつ学習させ、次にテキストの“*Our Unique Planet*” SEIBIDOを読む。さらに、テキストの内容についての問題を解き、最後にテキスト音読を学生用コンピュータに録音させ、教師用PCに音読ファイルを送らせている。私は録音ファイルをUSBメモリーに入れて持ち帰り、それを聞いて、個人にコメントを書き、次の授業でコメントを配布している（Appendix 1）。また、自宅学習としてテキスト本文の英語の要約を提出させ、私が自宅で添削して、次の授業で返却している。

3. カタカナ・日本語による発音指導

音読のコメントはELEC同友会英語教育学会音声指導研究部会で研究している近似かな表記を用いている。学生の頭の中にはすでに日本語の発音があるので、ゼロから英語発音を教えるよりも、近似かな表記を用いた方が英語発音習得の近道であると考えたからである。発音指導では短音だけでなく、センテンスストレス、リズム、イントネーションといった超分節音素とそれに伴う、語と語の連結、同化、弱化、脱落といった音変化も合わせて指導している。

4. 生徒の授業アンケート

2012年度前期授業の7月最後の授業で（7月19日）授業アンケートを行った。質問項目は以下の通りで、5（全くそう思う）、4（ややそう思う）、3（どちらとも言えない）、2（ややそう思わない）、1（全くそう思わない）の5件法で回答させた。また、それぞれの理由を自由記述で回答させた。当日は2名の欠席があり、25名が回答した。

- (1) 英語学習は大学生活と自分の将来のために必要だと思う。
- (2) 基礎英語の授業は楽しい。
- (3) 基礎英語の授業は英語学習に役に立つ。
- (4) 授業の初めに行ったリスニングの練習は役に立った。
- (5) テキストを読むことは役に立った。
- (6) 授業の最後に行った音読練習は役に立った。
- (7) 宿題として出されたサマリーライティングは役に立った。
- (8) 音読についてのカタカナや日本語を用いたコメントは役に立った。
- (9) その他意見があれば自由に書いてください。

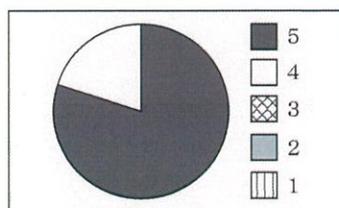
5. アンケート結果

アンケートの結果は以下のようであった。

- (1) 英語学習は大学生活と自分の将来のために必要だと思う。

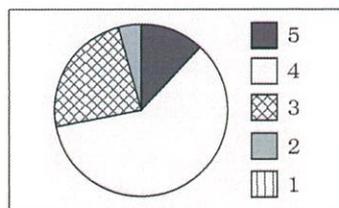
回答番号 人数 クラスでの割合

5	20	80.0%
4	5	20.0%
3	0	0.0%
2	0	0.0%
1	0	0.0%



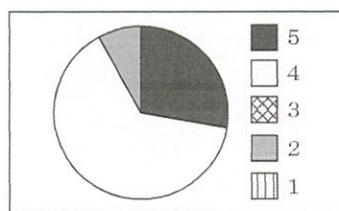
- (2) 基礎英語の授業は楽しい。

5	3	12.0%
4	15	60.0%
3	6	24.0%
2	1	4.0%
1	0	0.0%



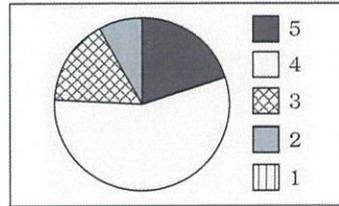
- (3) 基礎英語の授業は英語学習に役に立つ。

5	7	28.0%
4	16	64.0%
3	0	0.0%
2	2	8.0%
1	0	0.0%



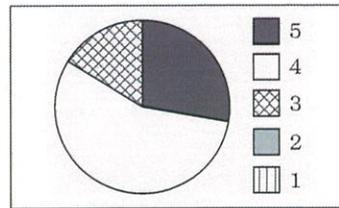
(4) 授業の初めに行ったリスニングの練習は役に立った。

5	5	20.0%
4	14	56.0%
3	4	16.0%
2	2	8.0%
1	0	0.0%



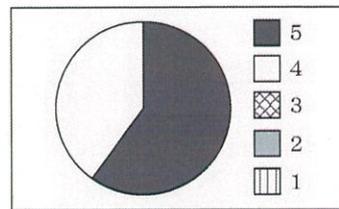
(5) テキストを読むことは役に立った。

5	7	28.0%
4	14	56.0%
3	4	16.0%
2	0	0.0%
1	0	0.0%



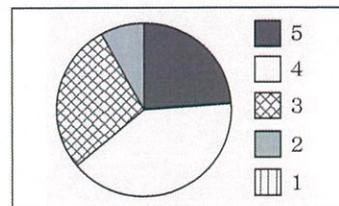
(6) 授業の最後に行った音読練習は役に立った。

5	15	60.0%
4	10	40.0%
3	0	0.0%
2	0	0.0%
1	0	0.0%



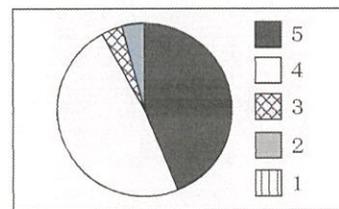
(7) 宿題として出されたサマリーライティングは役に立った。

5	6	24.0%
4	10	40.0%
3	7	28.0%
2	2	8.0%
1	0	0.0%



(8) 音読についてのカタカナや日本語を用いたコメントは役に立った。

5	11	44.0%
4	12	48.0%
3	1	4.0%
2	1	4.0%
1	0	0.0%



また、自由記述の意見は以下のものであった。

(3) 基礎英語の授業は英語学習に役に立つ。

全くそう思う：発音を教えてくれる点。客観的に自分の発音が聞ける点。いずれ会話する必要が出てきた時に。週に1度リスニングができる点。

ややそう思わない：週1回で定着が難しい。内容が高校生レベルで理科の専門知識ばかり。

- (4) 授業の初めに行ったリスニングの練習は役に立った。
全くそう思う：リスニングが苦手だが聞くときのコツがつかめた。聞き取る意欲がわいた。教材が使いやすく、効果的。発音の仕方がわかった。
ややそう思わない：もう少し難しくてもよい。リスニングは得意で効果が実感できない。
- (5) テキストを読むことは役に立った。
全くそう思う：文法や単語を詳しくやる高校の授業と違い、内容を深めていた点。内容に興味を持てた、知識が増えた。科学がテーマの話で教養を身につけられた。とても読みやすい文で、嫌にならなかった。
- (6) 授業の最後に行った音読練習は役に立った。
全くそう思う：毎週添削してもらえるので意識して読むことができた。シャドーイングの練習になった。口が英語になれてくる。自分の音読を反省する機会になった。自分の苦手な発音がわかった。自分の発音を丁寧に指導してもらうことが役だった。今まで発音について細かく指導を受けたことがなかったので、話せる自信がついた。正しい発音が身につく。アドバイスがわかりやすい。文中のどこを意識して強弱をつけることで、どこが重要かわかるようになる。
- (7) 宿題として出されたサマリーライティングは役に立った。
全くそう思う：リーディング、ライティング両方できる。ライティング力、構成力が身についた。復習になる。表現をたくさん知れた。本文の深い理解に繋がる。
ややそう思わない：抜き出しの要約よりも英作文を添削してもらった方がよい。教科書からの抜き出しだけなので自分の力にならない。
- (8) 音読についてのカタカナや日本語を用いたコメントは役に立った。
全くそう思う：自分で読むときもそういう工夫をするようになった。面白く学習に取り組めた。無理に使いこなせない発音記号をやるより役に立つと思った。印象にも残りやすい。わかりやすい。わかりづらい発音がすぐに理解できる。イメージしやすく、聞き取る時も役だった。アルファベットと違う発音が勉強になった。カタカナだと感覚的に捉えやすかった。スピーキング力が上がる。
ややそう思わない：ノーコメント

6. 考察

「英語学習が大学生活と自分の将来のために必要か」という質問に100%の学生がそう思うと答えていたのは驚きであった。生活科学部の学生であっても将来のために英語が必要だと思っているということが自分の授業に対する姿勢を大いに変えてくれた。大学の一般

教養の英語授業は学生の要求に応えられるだけの実践的な英語教育を提供すべきだと考えている。

「基礎英語の授業は楽しいか」という質問では60%がややそう思うと答え、12%しかとてもそう思うと答えていない。ほぼ90分を英語だけで行っているので、学生を少々緊張させてしまったのかもしれない。少し、息抜きを取り入れることも必要かもしれない。

「基礎英語の授業は英語学習に役に立つか」という質問に92%がそう思うと答えている。ややそう思わないと答えた者が8%いたが、内容が高校レベルで話題が理科系のものばかりだからという理由であった。生活科学部ということで身近な科学の話題のテキストを選んでいるが、もう少し幅広い話題のテキストを選ぶことも必要かもしれない。

「リスニングの練習は役に立ったか」という質問では76%がそう思うと答えており、8%がややそう思わないと答えた。役に立たないと答えた理由は内容が易しすぎることと、もともとリスニングが得意なので効果が実感できないということであった。文部科学省の教育情報共有化モデル事業で指定を受け、高校生用に作成したリスニングコンテンツなので大学生には易しすぎたのかもしれない。ただ、作り直すとなると、予算や人手が必要となるので現時点では難しく、今あるものを使っていくしかないであろう。

「テキストを読むことは役に立ったか」という質問では84%がそう思うと答えている。理由は、文法や単語を詳しくやる高校の授業と違い、内容を深めていたので興味が持てたということと、科学がテーマの話なので、教養を身につけられたからということであった。教科書の内容を肯定している者もいるのだと思った。今後は科学の内容も大切であるが、他の話題が入ったテキストも探すように努力したい。

「音読練習は役に立ったか」という質問に100%がそう思うと答えており、この実践が成功であったことがうかがえた。理由としては、添削してもらえるので意識して読める、今まで発音を細かく指導を受けたことがなかったから、アドバイスがわかりやすい、文中のどこを意識して強弱をつけることでどこが重要かわかるなどであった。この意見から、近似かな表記がわかりやすかったということが想像できた。

「サマリーライティングは役に立ったか」という質問には64%がそう思うと答えていた。また8%がややそう思わないと答えていた。理由は本文を抜き出すだけのサマリーライティングでは自分の力にならないということであった。しかし、毎週27名の英語を添削するので、自由英作ではさらに大変になり、おそらく返却が間に合わなくなるであろうことが想像できる。このままで行っていくしかないであろう。

「音読についてのカタカナや日本語を用いたコメントは役に立ったか」という質問では92%がそう思うと答えていた。理由は面白く学習に取り組めた、無理に使いこなせない発音記号をやるより役に立つ、イメージしやすく聞き取る時も役立った、カタカナだと感覚的に捉えやすいなどであった。これらの意見から、日本人学習者に発音を教える場合は発音記号を使うよりもカタカナを使った方が近道なのではないかと想像できた。今後も大学生に近似かな表記を使って発音指導を行うのと同時に高校生に対してもこれを使って指導

していきたいと考えている。しかし、本務校の高校では生徒の音読を録音して、自宅に持ち帰れる施設がないので、同じ指導ができないことが残念である。今後高校でも CALL 教室が設置されることを希望している。

Appendix 1

A

lighter, rocky など [l] と [r] の区別がしっかりできていなかったようです。[l] の前はヌ、[r] の前はウと言うようにしましょう。iron はアイアンと発音します。

B

綴り字通りに読んでいる傾向があります。たとえば hydrogen です。dr はヂュと発音し、ハイヂュウジェンという感じで発音すると英語らしく発音できると思います。

C

上手に読めたと思います。planet, plane など pl の発音が多くありましたが、[p] と [l] のつながりが弱く、間に母音が入っているように聞こえます。[l] の口で [p] を発音するようになるときれいに子音連結が発音できます。

D

アクセントが間違っている単語がありました。hydrogen, compounds などです。HYdrogen, COmpounds と発音してください。アクセントを正しい位置で発音しないと意味が伝わらなくなりますので、気をつけましょう。

E

とても上手に読めたと思います。iron をアイロンと発音していませんか？アイアンと発音してください。concentrate のアクセントが間違っています。COncentrate です。アクセントを正しい位置で発音しないと意味が伝わらなくなりますので、気をつけましょう。

F

上手に読めたと思います。iron をアイロンと発音していませんか？アイアンと発音してください。rocky はウラッキーと発音するようにしてください。gaseous はゲアシアスと発音すると英語らしくなると思います。

G

helium はヒーリウムと発音してください。iron はアイロンではなくアイアンと発音してください。また、rocky はウラッキーと発音するようにしてください。

H

とてもスムーズに読めたと思いました。少々リズムがないのが残念でした。名詞、動詞、形容詞、副詞などの内容語を強く読み、前置詞、接続詞、代名詞、冠詞などの機能語を弱く読むようにすると、リズムが生まれます。